**昭和女子大学附属昭和中学・高等学校　2024年度ユネスコスクール年次報告書**

【活動分野】生物多様性, 海洋,, 気候変動, エネルギー, 環境, 文化多様性, 国際理解, 平和, 人権, ジェンダー平等, 福祉, 持続可能な生産と消費, 食育, 貧困

【もくじ】--------------------------------------------------------------------------------------------------------

＜１＞活動ビジョン

＜２＞活動内容

１．LABO活動

２．サービスラーニング

３．光葉会活動

４．オペレーション・グリーン活動

５．SDMs活動

６．学校として取り組んだボランティア活動

７．Briish School in Tokyo (BST) との交流

８．伝統文化交流

—--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**＜１＞活動ビジョン**

　本学園は「世の光となろう　Shine Your Light Globally」をスクールモットーとし、「世を照らす太陽のように世界を舞台に活躍できる女性」、「身近な人を照らすことのできる女性」へと生徒が成長して欲しいと願い、ESD，SDGsを学校目標達成の一つの柱として捉え、SDGs達成へ向けた実践を通して、自己実現を目指し、奉仕の心と社会や世界の事柄に関心を持ち貢献できる生徒を育てることを目標としている。

　本校は、2014年度から文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール（SGH）として指定を受け、企業や大学と連携した活動を遠し、世界を視野におきグローバル・リーダーとして活躍できる女性人材育成プログラムを2019年３月まで実施してきた。2019年度４月からは、文部科学省が助成する「地域との協働による高等学校教育開発推進事業」の指定校となり、他者と協働しながら新しい価値を創造できる力を持つ人材の育成を行っている。

　SGHの中心的なプログラムであった「LABO活動」は、世界規模の課題を、海外研修などを重ねて研究する活動であったが、４月からは「LABO活動」を「Act globally」の活動と位置づけたことに加え、これまで高校の行学や総合的な学習の時間に実施していた「サービスラーニング」を、より緊密な地域連携を構築した「Act locally」をモットーとした社会参与学習プログラムとして再編・強化し、「LABO活動」と並置し活動をしている。

　また、2017年度から、SDMs(Speech, Debate and the Model United Nations Society) という有志生徒グループによる、模擬国連やユネスコスクール活動も始まり、現在に至っている。加えて、2022年度からは、有志生徒の環境チーム、Operation Green（以下、OG）による「持続可能な学校を作る」活動も始まった。有志の活動が近年、活発になっており、生徒の自主性が育っている。

**＜２＞活動内容**

**１．LABO活動（課題研究）**

　高校1年次に希望した生徒を対象に、2年間を通して以下のテーマについて調査，研究を行うことで，「貧困，教育，ジェンダー，住み続けられるまち，平和と公正，パートナーシップ」といったSDGs達成に寄与する知識，能力の向上，想いの醸成に寄与した。

●研究テーマ：

　LABO①：世界で活躍する日本人リーダー

　LABO②：ジェンダーへの意識と教育

**２．サービスラーニング（ボランティアを通した地域貢献型探究活動）**

　ボランティア活動を通して社会課題の発見、解決への提言を行う実学型プログラムで、　高校1・2年生4～6名のグループで実施。多くの生徒が参加し、様々な視点から課題を発見し、解決策を検討したり、実践活動に取り組んだりした。　　　　　　　　　　　　　　　　社会に関わる活動を通して、社会人の方々とのコミュニケーション力、課題発見力、課題解決力、自己肯定感などを高めることにつながっている。

●テーマの区分と活動内容：

①都市づくり

　活動テーマ：・商店街、商業ゾーンの活性化　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・せたペイ普及・都市防災　など

②都市社会問題

　活動テーマ：・高齢者住民の増加、独居老人問題　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・子育て、保育、待機児童問題　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・子どもの体力不足、子ども食堂・外国人の増加、国際交流、表示　　　　　　　　　　　・動物愛護　など

➂風景づくり

　活動テーマ：・景観重要公共施設の保護・多摩川、等々力渓谷などの自然保護　　　　　　　　　　　　・公共施設、遊休地の活用 　など

④企業活動

　活動テーマ：・ものづくり企業の支援　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・若者向け商品の開発、広報・販売支援　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・フェアトレード商品の広報、販売支援・食品ロス　など

**３．光葉会活動(委員会/生徒会活動)**

　校内の委員会や生徒会活動で取り組んだ内容を以下に述べる。

（１）教養部 (委員会)

７月に夏祭り(七夕祭)を開催し、アイスクリームを販売した。10月にハロウィーンパーティを開催、仮装してチェキで撮影コーナーのクイズに答えた分だけ、お茶を配付した。以上の売上金は厚生部と協力して、しかるべき募金機関に寄付した。2025年２月には、総合探究授業の総まとめである全校発表を生徒の手で運営する予定。

（２）厚生部 (委員会)

前期と後期で福祉募金の協力を呼びかけ、集まった募金は、3月にユニセフ・日本赤十字・あけぼの学園（重度心身障害者施設）・赤十字こどもの家（児童養護施設）等に送る予定。

２月にフェアトレード商品を販売し、得た収益金は販売元の団体や福祉募金の一部に充てる。

ペットボトルのキャップと使い捨てコンタクトレンズの空容器を回収している。回収したペットボトルのキャップは、プラスティック工場に送られ、世界の子どもにワクチンを日本委員会に寄付し、役立てられている。また、使い捨てコンタクトレンズの空容器も収益の一部が、視力を取り戻す活動に寄付されている。

衣料廃棄物の削減を目標に、不要になった制服類を回収した。今後、必要としている生徒への譲渡の機会を提供する予定。

**４．「オペレーション・グリーン」活動**

　「持続可能な学校を作る！」という目標のもと、2022年4月にスタートした新しい通年の活動。社団法人Earth Company（NPO)のサポートを受け、学校の環境負荷を下げるためにできる取り組みを生徒主導で行っている。放課後や昼休みの時間を使った、有志の課外活動の位置付けで、初年度は60人、昨年度は50人、今年度は33人の登録メンバーが活動に参加している。例年は高校生中心だが、今年に関しては中学３年生が中心である。１年目の2022年度は、敷地内に隣接する「British School in Tokyo 昭和」（略称BST)（小学校高学年～高校）との「協同プロジェクト」として始まった。２年目は、両校とも校内での活動に焦点を移し、３年目となる今年度も同様に各学校で実施している。初年度はEarth Company主導の面もあったが、２年目からは生徒自身が考えて動く活動が中心に展開されている。

　生徒は以下のスローガンの下、①～➂の３チームに分かれ、活動を行っている。

●スローガン：「Toward Our Well-being: Soil, Soul, and Society：地球、人、社会のウェルビーイング（健康、平安、幸福）」を目指す。 「Regenerative (リジェネラティブ）」という理念をEarth Companyから学んでいる。Zero Waste(ゼロ・ウェイスト　ゴミを出さない）, Zero Emission(二酸化炭素の排出ゼロ）を目標に掲げ、全校生徒・教職員が取り組み、「持続可能な学園」作りに励んでいく。人は自然の一部であり、切り離されてはいない、人と自然が繋がり合う、自然・いのちの営みを守る、という意識を深めていく。

（１）Waste Management（廃棄物管理）活動

①ペットボトル削減のための「マイボトル」持参の推奨。自販機飲料に代わる「ウォーター・クーラー」の導入計画の立案。2024年1月に生徒への周知を行い、運用開始。

2022年度に学校に提案した「ウォーター・クーラー」（冷水器）が2024年１月に７台設置され、運用を開始した。OGの生徒が全校放送で「オープニング」を宣言し、「マイボトル」持参のキャンペーン「マイボトル・チャレンジ」を校内に呼び掛けた。

　導入された機種(OASIS)は、「ペットボトル削減量（CO2 350ml換算）」が示される機種であるため、OGでは定期的に全校のペットボトル削減量を記録・報告している。

　それによると、この１年間で500mlペットボトル７万本以上の削減をした。これは二酸化炭素排出量7,000kg=７トンの削減になった。日本人１人が年間排出している二酸化炭素量は約７トンなので、その分を全校で削減したことになる。来年度は、さらに利用を呼びかけ、校内自販機のペットボトルや缶飲料の購入を削減していきたい。

　ウォーター・クーラー導入を一つの契機に、「環境を意識したアクション」を全校で「習慣化」できるように啓蒙していくことがOGの目標の一つである。毎月、１日を「マイボトル」、15日を「プラ文具」、30日を「紙資源」の日と定め、校内ポスター掲示で呼びかけていく予定である。

②「紙の分別」の徹底によるゴミの削減、ペーパーレス化を意識した教育活動

　今年度は、中学３年生が「紙分別」リーダーとなり、力を発揮した。2022年度より、ポスター掲示やクラスでの告知など、取り組んできてはいたが、大きな進展はなかった。今年度は、中学３年の生徒が生徒会組織「保健部」と連携しながら、新たな仕組みづくりに粘り強く取り組んできた。「リサイクル・アドバイザー」という新たな「係」を全クラスに設け、OGが主導しながら保健部と連携し、「紙の分別」に取り組むというもの。まずは、３年生で試験的に「リサイクル・アドバイザー」を導入すべく、現在動いている。来年度は、全学年で「リサイクル・アドバイザー」を全クラスに置き、学校全体で「紙分別強化」に動き出すべく準備している。「混ぜればゴミ、分ければ資源」、「No Recycling, No Life」を合言葉に、進めている。

➂７月：学園本部の総務と施設課の担当者を講師にレクチャー

　施設課の担当者からは、電球の多くをLEDに変更し、太陽光パネルの増設も計画中であるとの発表があり、学園として環境負荷の削減に取り組んでいることが確認された。

④使用済みプラスチック文房具の回収

　中学２年生と３年生から「使用済みプラスチック文具の回収」を実施したいという要望があり、６月と７月に「テラサイクル」社の担当の方を招き、レクチャーをしていただいた。回収箱の設置は11月から始め、各階に設置した。現在、回収数が伸びていないため、さらなる啓蒙活動を行い、この回収に参加する生徒数を増やしていきたい。１月末に一度集計を行っている。新しい取り組みを、高校生ではなく、中学生が進めたことに意義がある。

（２）CO2削減グループの活動

①省エネ推進活動（(ⅰ)「校内のエアコン温度の設定」、( ⅱ)電気およびエアコン・スイッチの消し忘れをなくす啓蒙活動。「カエルチェック」と称して、１～２週間程度、各クラスのエアコン温度や電気の消灯の状況を調査して、発表している。

②2022年度11月に自然エネルギーによる「校内発電」として「ソーラーパネルの増設」を学園本部に要望したが、引き続き提案を続けていき、意思疎通を図っていく。

➂今年度は、生徒会役員（中央委員会）と「エアコン設定温度」について話し合いを行っている。学園の設定温度である「夏26度以上、冬24度以下」を守って、電気消費量を抑えていくために、できることは何か話し合っている。「この温度は適切か。守られていないことが大変多いが、どのように対応するべきか」ということを話し合っている。

また、現在、Operation Greenの生徒のみがエアコン温度をチェックしている状態だが、これを全校生徒たちが気にかけて、電力消費を抑えて、二酸化炭素排出量削減ができるように、どのような仕組みづくりが必要かを議論している。新年度（４月）から、具体的に各クラスにおろしていけるよう、必要な話し合い・手続きを進めていきたいと考えている。

（３）Foundation(基盤づくり）の活動

　広報・啓蒙活動を行うグループ。OG活動の背景にある理念を探究し、その発信も含めて、より多くの生徒・先生方に活動に参加してもらえるよう動く。初年度は、活動の発信を専用インスタグラム・アカウントを設け、学校内外に活動内容を発信したが、２年目からは行っていない。

①全校「環境意識アンケートの実施」（７月）

　全校生徒・教職員を対象にした「環境意識アンケート」を実施した。アンケートを作成するのに１年を要したが、400人以上（全校生徒1200人以下）と、約１/3の生徒と教員から回答を得た。その結果の発表を、2月の探求発表会で全校生徒に報告する予定である。

②BSTのSustainabiltyチームと交流＠文化祭(11月）

　隣接する「British School in Tokyo昭和（BST)の生徒会役員と昭和祭で交流した。その際、BSTのSustainabilityチームが、プラスチック・ゴミが大量に出るため、その削減に取り組む活動が紹介された。本校もOGの活動を３人の生徒が紹介した。

・１/27(月）：Operation Green（外部団体）の運営母体Earth Companyの共同設立者、濱川知宏氏をバリ島からZOOMでつないで講演会を開催した。Regeneration(再生）というOperation Greenの基本理念について理解を深めた。今後も、Regenerationの理念に基づいて、活動を進めていきたい。濱川氏の講演会は昨年に引き続き、２度目。生徒の参加人数はあいにく10人未満だったが、内容はとても深く有意義であった。

　濱川氏の講演は、音楽・写真・映像の付いた瞑想から始まり、最後に「Inner Development Goals (IDGs)」という概念の紹介があった。現時点の予測では、SDGsは2030年までに13％程度しか目標を達成できないだろうとされているが、その原因の一つとして「人間の内面が、高いSDGsの目標を達成できるほど十分に育っていないから」という考えの下、IDGsというアプローチが近年、提唱され始めている。これまでは [Do-Have-Be」（多くのことを行い→経済力や地位を得れば→幸福になれる）と考えられてきたが、IDGsやRegenerativeな考えでは、Be-Have-Do（まず人の内面が穏やかで幸せであること=Be、つまり人としての「あり方」が最初に来る）という意識転換を提唱する。これは大変深い提言で、我々人類の根源的価値観の変換を促すものだが、地球に人が今後も暮らし続けられるかということを考えるにあたって、鍵を握る考え方かもしれない。引き続き、生徒と共に模索していきたい。

➂活動の発表

　2022年度２月から毎年、「探求的な活動全校発表会」で15分の活動報告を全校に行っている。昭和祭での発表に加えて、今年は12月に、韓国ユネスコスクール（釜山国際高校）とZOOM交流を行い、OGの生徒も活動を英語で発表した。

　３月には、ベネッセ主催の「STEAM探求発表会」に、本校からOGメンバー４人の生徒が参加する予定である。

④活動の成果

　全校アンケートを実施し、その結果、約80％の生徒・教員が「今すぐにでも何か行動を起こしたい」と回答した。生徒の意識の高さがうかがえる。これを全校生徒が「エアコンの設定温度遵守やこまめな電気消灯」など行動につなげていけるように、仕組みを考えているところである。

　中学３年生の新しい取り組みが二つ始まったことが成果である。一つは「紙分別強化とそのためのリサイクル・アドバイザーの設置」および「使用済みプラスチック文具の回収」である。また、中学３年生と高校２年生がペアを組み、生徒会役員とエアコンや電気消灯を全校一人一人が取り組んでいく仕組みを作ることについて、協議を始めた。これも成果の一つである。

**５．SDMs活動（SDGs探究・模擬国連活動の有志の会）**

　「SDMs」とは「Speech, Debate and the Model United Nations society」の略称で、SDGsを基軸に活動している有志グループである。今年度はさらにメンバーが増え、1－５年生まで50余名が何らかの活動に参加している。活動は、SDGsを議題にした「模擬国連会議」の参加にとどまらず、「おにぎりアクション」というボランティア活動の主催、また一昨年度から始まった、隣接する英国系インターナショナル・スクールBST(British School in Tokyo) との交流活動、スピーチ大会に挑戦する者など、幅広い。

　今年度、模擬国連の活動は以下の通り。

★５月：「板橋会議（初心者会議）」。高校１年生を中心に約20人が参加。「核軍縮」がテーマ。本校のベトナム大使が決議案を提出する等、活躍した。淑徳高校と帝京高校の合同会議。

★６月：高校１年生がＳＤＭｓ内に「模擬国連コミュニティ」を発足させた。高校１年生を中心に30人以上が集っている。代表を決める過程を民主的なプロセスでオープンに進められるよう、生徒・教員とで話し合いを重ね、発足に漕ぎつけた。昨年度、高２の生徒が「模擬模擬国連チーム」をSDMs内に作りたいと提案していたことを、２学年下の生徒たちが、結実させた。

★８月：「全国高校教育模擬国連会議」（AJEMUN）の議長団に高校３年生が議長/副議長として参加した。

★８月末：「葉月会議（２日間）」は桐蔭と実践女子の共同模擬国連であるが、中学２年生から高校１年生まで４組が大使として参加。中学生チームが活躍した。初めて「一般議場」（英語でスピーチし、文書も英語）に参加した高校１年生は、他校の生徒達が流暢に英語を使っている様子に刺激も大きかったようである。

★９月：世田谷学園と共同で「第一回昭和女子×世田谷学園・初心者会議」を本校で開催。両校合わせて60人近くの生徒が参加。「模擬国連コミュニティ」の高校一年生が議長団を見事に務めた。会議監督は教員が務め、グローバルクラスルームの大学生にも助言をもらった。会議は大成功となり、世田谷学園からは「２回目を早く実施しましょう」との誘いを受けた。テーマは「教育」。「熟議・対話・傾聴」をテーマに掲げ、「最優秀大使賞」もその目標に沿って、貢献した大使を選んだ。だが、実際は「熟議・対話・傾聴」を実施するには難しい面も多々あり、今後、引き続き追及したいテーマとなった。

★12月：グローバルクラスルーム主催の「模擬国連研修」（ZOOM)に参加。DR（Draft Resolution：決議案）の書き方について学んだ。

★12月：「第２回昭和女子×世田谷学園　合同　初心者会議」。同じく60人近くが集い、世田谷学園での開催となった。合同で議長団を務めた。テーマ：「アフリカの水問題」。世田谷学園の生徒が多く参加し、同校で今後も模擬国連に参加していこうという意欲が生まれた、と聞いている。本校でも初心者の多い会議となり、「普及」の意味では成功であった。

★１月：「JEIMUN(All English （３日間）」の国際会議に生徒２人が参加。ボランティア３人、見学者２人で計７人が参加した。議題は「死刑制度の是非」。

★２月：「鴎友×海城×世田谷学園会議」に招待いただき、２ペアが大使として参加予定。

★３月：渋谷教育学園幕張の「春会議」（２日間）に参加。５ペア程度が参加予定。議題：「魔法会議：魔法の軍事利用の規制」（空想会議）。

★３月「JMMUN」（洗足学園主催）のAll English国際会議に参加予定。

**６．学校として取り組んだボランティア活動**

　最もユネスコスクール活動らしい、生徒発信の活動も、引き続き行われた。この有志の会では、「地球規模の課題について学び、各自が問題解決のためにできることを考え、行動する」ことが柱となっている。個人レベルで取り組むべきこと、また、学校全体を巻き込んでできること、また地域や国や世界規模で取り組むべきことなど、様々な視点で問題解決に向かう力を養いたいと考えている。

■活動内容

(ⅰ) 「おにぎりアクション」(Table for Two主催）。今年度で６度目となり、上記の　　SDMs(有志の会）が生徒会のグループと共催した。BSTの生徒会とも協同で行い、多くの「おにぎりイラスト」を生徒たちは投稿した。この活動は、おにぎりのイラストや本物のおにぎりの写真を投稿することで、1枚100円の「アジア・アフリカの児童の給食費」として寄付に回すことができる、という活動である。BSTとは、３月に共同で大きな「おにぎりポスター」を作成する予定である。

(ii) 使い捨てカイロ回収活動

　2022年度から始めたこの活動は、 今年で３回目。今年は回収期間を１１月から３月までと長い間、実施している。初年度は987個ほどを回収、昨年度は１万個以上を回収し、主催のGo Green社に送付することができた。今年度は、昨年度より低調で1月末で1000個ほどが寄付された。

**７．「British School in Tokyo 昭和(BST）」との交流**

　JSIE（Japan Institute for Social Innovation and Entrepreneurship）のサポートを受け、BST生徒も交え、２回のRound Table Discussionを英語で実施した。

●１回目（6月3日）：参加生徒約30名。テーマ：”Nuclear Weapons and the World”（核兵器と世界）。国際関係論の専門家であるコロンビア大学佐々木文子講師から、国際政治力学の現状に関するレクチャーを受け、「世界平和のために核兵器は必要か？」「核兵器は戦争回避の抑止力となるか？」「日本は核兵器を保有すべきか？」などの問いについて、テーブルに分かれてディスカッションを行った。ウクライナ紛争を巡るロシアの発言などに見られるように、これまでになく核の脅威が高まっている今日の世界において、戦争と平和、その中で軍事力や核兵器が果たす役割、唯一の核被爆国である日本だからこそ成し得る貢献などについて、改めて深く考えるよい機会となった。

●２回目（９月18日）：参加生徒約30名。テーマ：”Climate Change”（気候変動）。１回目同様、佐々木講師から、気候変動の現状や各国の対策について、そして集団行為問題（集団において個人は「自分がやらなくても誰かがやるだろう」という責任回避の意識を持ちがちであるという理論）の紹介を受け、「気候危機解決のために我々は何をすべきか？」「集団行為問題のような現象があっても、それでもなおあなたは具体的な行動を起こしますか？」などの問いについて、テーブルに分かれてディスカッションを行った。生徒たちからは、「集団行為問題という概念を初めて知って、積極的に行動しない人が多い理由がよくわかった」、「周りが変わらないからと言って自分がやらないのは違うと思った」などの感想が寄せられた。年々激甚化の一途をたどる異常気象や大災害など、もはや待ったなしの気候変動対策や、先進国の一翼を担う日本が果たすべき役割などについて、改めて深く考えるよい機会となった。

**８．伝統文化交流**

【前期】

（１）華道フラワーアレンジメント部との交流（６月）

　6月：隣接のブリティッシュ・スクール・イン・東京(BST)との文化交流の一環として、華道フラワーデザイン部の協力のもと、12名の生徒を招き、華道部講師指導の下、部員とともにフラワーアレンジメントを作成し、文化交流を深められた。

（２）BSTのよる落語講演会に、本校中学2年生徒が参加（６月）

　春風亭昇羊氏による落語の初心者向けの講座に本校２年生生徒が参加。日本の落語講演をバイリンガルで上映と、落語の定石や小道具について、生徒は初めて学び、貴重な経験ができた。

【後期】（１月は「伝統文化交流の月」とした）

（３）茶道部　初釜茶会　招待（１月９日）

　BSTの生徒・先生方を中高部・茶道部の初釜にお招きした。伝統文化に対して興味が高く、部員にもさまざまな質問をし、部員の点前での所作からも、学びが大きい、というコメントをいただいた。

（４）新春羽根つき大会　(体育部主催)　（１月15日）

　羽根つき大会に、BSTの希望生徒６名が参加。初めて羽根つきをするという生徒がほとんどで、体育部生徒と日本語や英語を交えたコミュニケーションを通して、すぐに溶け込み、楽しく大会に参加できた。

（５）書道部との文化交流　（１月30日）

　１月末の書道部の活動に、BST生徒が参加。英語での氏名表記を日本語での漢字に変えて習字に取り組むなど、楽しく書道の初歩を部員とともに学ぶ様子が見られた。

　その他、BSTとは、年に一度、互いの学校に６人ほどの生徒たちが３日間ステイするという「短期交換プログラム」を実施している。今年は春休み中の３月下旬に、高校１年生を中心に訪問する予定である。６月には、６人のBST生徒が３日間本校にステイし、親睦を深めた。

（６）授業「平和の折り鶴を作る」（中２英語）

　授業での取り組みとしては、英語科中学２年生の授業で、教科書で、被ばくして12歳で亡くなった佐々木禎子さんの物語を読んだことをきっかけに、折り鶴を作った。ヒロシマの平和記念館とハワイの真珠湾記念館に設けられた禎子展示コーナーに、メッセージを書きこんだ折り鶴を作って送った。教科書に加え、ドキュメンタリー番組等を見て、理解を深めた。授業後のアンケートで「戦争と平和への理解を深められたと思う」と答えた生徒は、98%に上った。

【来年度の活動計画】

　今年度までの活動を継続・発展させることを基本としつつ，生徒の意見を尊重しながら，生徒たち自身が生徒たちのために様々な活動を展開できるプラットフォームを堅持したい。活動を通して，より深く自分事として諸課題に向き合い，深く思考し，協働的に課題を解決していく力を養っていく。